

中学校長会会長賞

堺市立 赤坂台中学校 三年

齋藤 美和

私たちが日々の取り組みからできること

皆さんは、普段から自分が住んでいる地域の方々や身の回りの人に「挨拶」をしていますか。

私は、普段から自分が住んでいる地域の方々やクラスメイト、学校の先生に、自分から笑顔で相手の目を見て「挨拶」をするように心がけています。なぜなら、自分から「挨拶」をすると、良質な人間関係を築くことができます。「挨拶」をすることで話をするきっかけになったり、相手の印象に残り、顔を覚えてもらえます。また、地域の方々に挨拶をして、自分の顔を覚えてもらうことで犯罪に巻き込まれないための対策にもなります。今では私の家の近所に住む人からは、登下校時に笑顔で「挨拶」を返してくれるだけでなく、

「行ってらっしゃい。」

「いつも荷物重そうやね。」

「今日はいいい天気だね。」

「気を付けてね。」

「お帰り。」

など、心が温まる一言を添えて頂けるようになりました。「挨拶」には、相手に対して自分の心を開き、尊敬や感謝などを表す礼儀的な動作という意味があります。そして、この「挨拶」が人とのつながりのきっかけになり、犯罪・非行の無い地域社会づくりや犯罪・非行をした人の立ち直りにつながると、私は思います。

人とのつながりといえば、私が小学生の頃、地域の子ども会に参加していました。活動は数か月に一度ほどで、自分たちの公園のゴミ拾いや、雑草抜きをします。まず、休日の朝に自分たちが担当する公園に行き、友達や近所の人があると「おはようございます」と挨拶をしてから掃除を始めます。砂場や遊具の周りの雑草を抜き終えたら別の公園へ移動して池の中に落ちているゴミや、池の周りや道端に落ちているゴミを拾います。地域の人や、小学校低学年から高学年までが一丸となって自分たちがお世話になっている地域をきれいにします。公園は普段から見るので、きれいにしたという実感が得られます。ただ掃除するのではなく、「挨拶」をきっかけに、地域の方と学校であったことなどをお話した

りもするので、コミュニケーションを図る場にもなっていると思います。地域の人と関わり合い、仲を深めるだけでなく、自分たちの住む街や公園がきれいになると、とても清々しく明るい気持ちになります。

日々の学校生活や、家庭生活の中で体験したことを通して、「挨拶」は「社会を明るくする運動」の第一歩だと思いました。なぜなら、何事も一日の始まりは「挨拶」から始まると思うからです。だから、「挨拶」が無ければ良い一日のスタートは切れないと思います。

このように、「挨拶」を心掛けることによってコミュニケーションを図り、礼儀や親和を重んじる心を伝え合うことで、自分たちの住む地域の人たちと良好な関係を築き、自分の行いが周りの人たちの役に立っている、自分は誰かに必要とされている、自分の居場所があるという実感が自分の置かれている環境や自分に関わる人たちを大切にしようという気持ちに発展し、その結果、犯罪・非行の抑止力となつて、明るい地域社会づくりの一助になると、私は思います。

